令和３年度第９回　感染症発生動向調査部会
議事要旨

１　日　時　　令和３年１２月１５日（水）　１４：００～

２　場　所　　岐阜大学医学部本館　1階　応接室（岐阜市柳戸１－１）

３　出席者

委　　員　：馬場　尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西　秀典（岐阜大学大学院医学系研究科　小児科学　教授）
澤田　明（岐阜大学医学部附属病院　眼科　臨床准教授）
加藤　達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）

オブザーバー：小山　静代（岐阜市保健所　感染症対策課　感染症対策係長）

事　務　局　：石塚　敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
山田　涼子（感染症対策推進課 技師）
今尾　幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡　隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

４　議　題　（進行：加藤委員）

（１）前月の感染症発生動向について
（２）検討すべき課題について
（３）その他（感染症対策推進課から）

５　議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

・事務局からの説明は資料のとおり。
・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

〇新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、県民の行動が変化しているが、このことでインフルエンザ、ＲＳウイルス感染症、感染性胃腸炎などの流行が今後見られるかどうか。

（委員から）

・マスクの着用や、体調不良時の外出抑制など、感染症対策への意識が根付いているので、昨年よりは幾分多いが、例年よりも流行は少ないのではないだろうか。

〇全国の感染症発生動向について（インフルエンザなど）

（事務局から）

インフルエンザ、RS ウイルス感染症及び手足口病について、過去３週間の全国の発生動向をマップ化したところ、現状では岐阜県における流行の兆しはみられませんでした。

（委員から）

・インフルエンザと RS ウイルス感染症について、これらの感染伝播のメカニズムは似ているかもしれないが、り患後の感染防御免疫の獲得については異なる様相を呈する。RS ウイルス感染症では、初感染が最も問題となり、一旦り患した後はリスクが低くなると言われているが、インフルエンザの場合は流行のたびにり患リスクがある。そのためこれらの感染症をひとまとめに考えるのは難しいのではないか。
・新型コロナウイルス感染症対策は日常的に行わなければならないので、現時点で流行の兆しはみえないものの、引続き日常の感染予防対策の啓発は続けるべきである。

【その他（感染症対策推進課から）】
・認定こども園での腸管出血性大腸菌感染症（Ｏ１４５）の発生について
・令和３年度　国内における鳥インフルエンザ発生状況
・「ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応」及び「予防接種法第５条第１項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について
・乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの供給について　（更新情報）
・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第１項及び第 14 条第２項に基づく届出の基準等について（一部改正）（新型コロナウイルス感染症　発生届の改正）